

平成 28 年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善

中学校・高等学校 英語科編



平成 29 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当

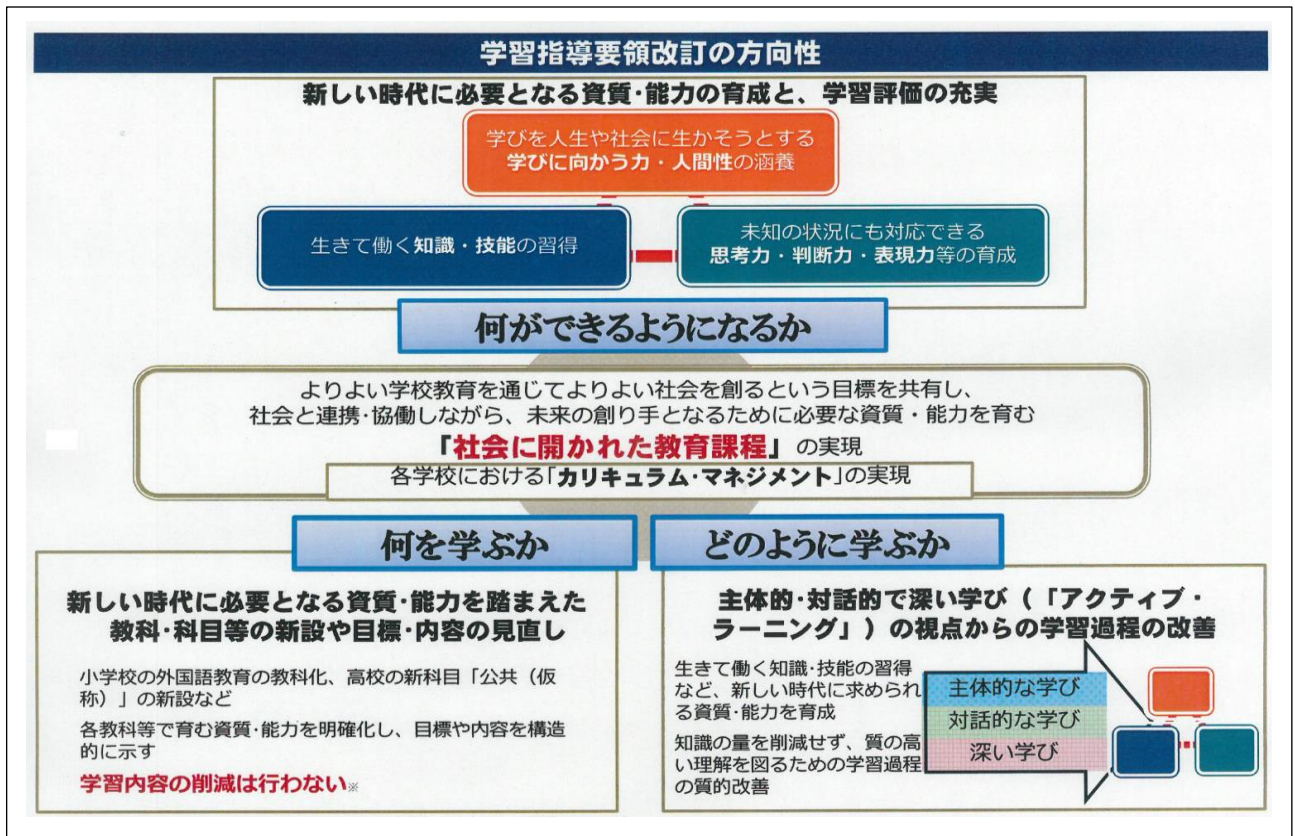
目 次

はじめに	1
I 育成を目指す資質や能力「何ができるようになるか」	2
1 育成を目指す資質・能力の共有	2
(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱について	2
(2) 育成を目指す資質・能力の設定と共有	2
2 英語科において育成を目指す資質・能力	4
3 英語科における「見方・考え方」	6
(1) 「見方・考え方」とは	6
(2) 「見方・考え方」と「三つの柱」の関係	6
(3) 英語科における「見方・考え方」とは	6
II 英語科の学習・指導の改善・充実「どのように学ぶか」	7
1 資質・能力を育成する学びの過程の考え方	7
2 「主体的・対話的で深い学び」の実現と「アクティブ・ラーニング」の視点	7
(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現	7
(2) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善について	8
3 単元の構想と学習過程	10
(1) 資質・能力の育成を目指した単元の構想	10
(2) 資質・能力を育む一単位時間の学習過程	12
III 学習評価の充実「何が身に付いたか」	13
1 学習評価について	13
2 パフォーマンス課題とルーブリックについて	15
IV 理論構築のための実践事例	16
1 中学校における授業実践	16
2 高等学校における授業実践	32
おわりに	40
V 引用文献, 参考文献及び参考 Web ページ	41

はじめに

平成 28 年 8 月、中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領の基本的な方針について「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（以下「審議のまとめ」という）」（2016）にまとめました。また、同 12 月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（以下「答申」という）」（2016）を出しました。

それらの中で、次期学習指導要領について、子供たちの現状と課題を踏まえつつ、人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し、一人一人の学びを後押しできるよう、これまでの改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに留まらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えて改善を図る方向性が示されています。（【図 1】）



【図 1】学習指導要領改訂の方向性（「答申 概要」（2016）P. 24）

また、「何ができるようになるか」という観点から整理された育成を目指す資質・能力（以下「三つの柱」という。）をバランスよく育むためには、「何を学ぶか」という指導内容等の見直しとともに、それらを「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿について「アクティブ・ラーニング」の視点からの見直しが欠かせないものとしています。

こうした流れを受け、本研究では、「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の考え方について、授業改善の方策を構想し、実践を通して検証すること、ただし、指導法を一定の型にはめ狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないようにすることに留意し、提示していきたいと思います。

また、授業をより充実したものにしていくために、「生徒たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える学習評価の考え方、さらに、学習評価の内容を学習・指導方法の改善につなげていく考え方についても合わせて示したいと考えています。

これにより、次期学習指導要領に想定される学習・指導方法への移行がスムーズに図られるとともに、今後の授業実践が生徒たちにとっても、教員にとっても有意義なものになるよう活用していただければ幸いです。

1 育成を目指す資質・能力の設定と共有

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

全ての教科等や諸課題に関する資質・能力に共通し、それらを高めていくために重要となる要素について、育成を目指す資質・能力の「三つの柱」として整理され、「答申」（2016）において以下のように示されました。

① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）

- 各教科等において習得する知識や技能であるが、個別の事実に知識のみを指すのではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むものである。
- 知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されたりするものであり、また、社会との関りや人生の見通しの基盤ともなる。このように、資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものであり、資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要である。

② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

- 将来の予測が困難な社会でも、未来を切り開いていくために必要な思考力・判断力・表現力である。思考・判断・表現の過程には、大きく分類して以下の三つがあると考えられる。
 - ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程。
 - ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程。
 - ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程。

③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

- 前述の①及び②の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であり、以下のような情意や態度等に関わるものが含まれる。こうした情意や態度等を育んでいくためには、体験活動も含め、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。
 - ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
 - ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

(2) 育成を目指す資質・能力の設定と共有

各学校が地域や社会の変化を受け止めながら、学校教育目標や育成を目指す資質・能力を明確にし、その実現に向けて、各教科等がどのような役割を果たせるかという視点を持つことが重要です。

そこで、学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有について、次のように考えました。

ア 学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有

・「学校教育を通じて育てたい姿」や資質・能力の「三つの柱」を踏まえ、生徒の実態や生徒の願い、保護者や地域・社会の願いに基づき設定されている学校教育目標等を軸に据え、学校評価結果とも照らしながら、学校全体として育成を目指す資質・能力を設定する。

・教職員全員が協働で考え設定することを通し、共有化と主体化を図る。

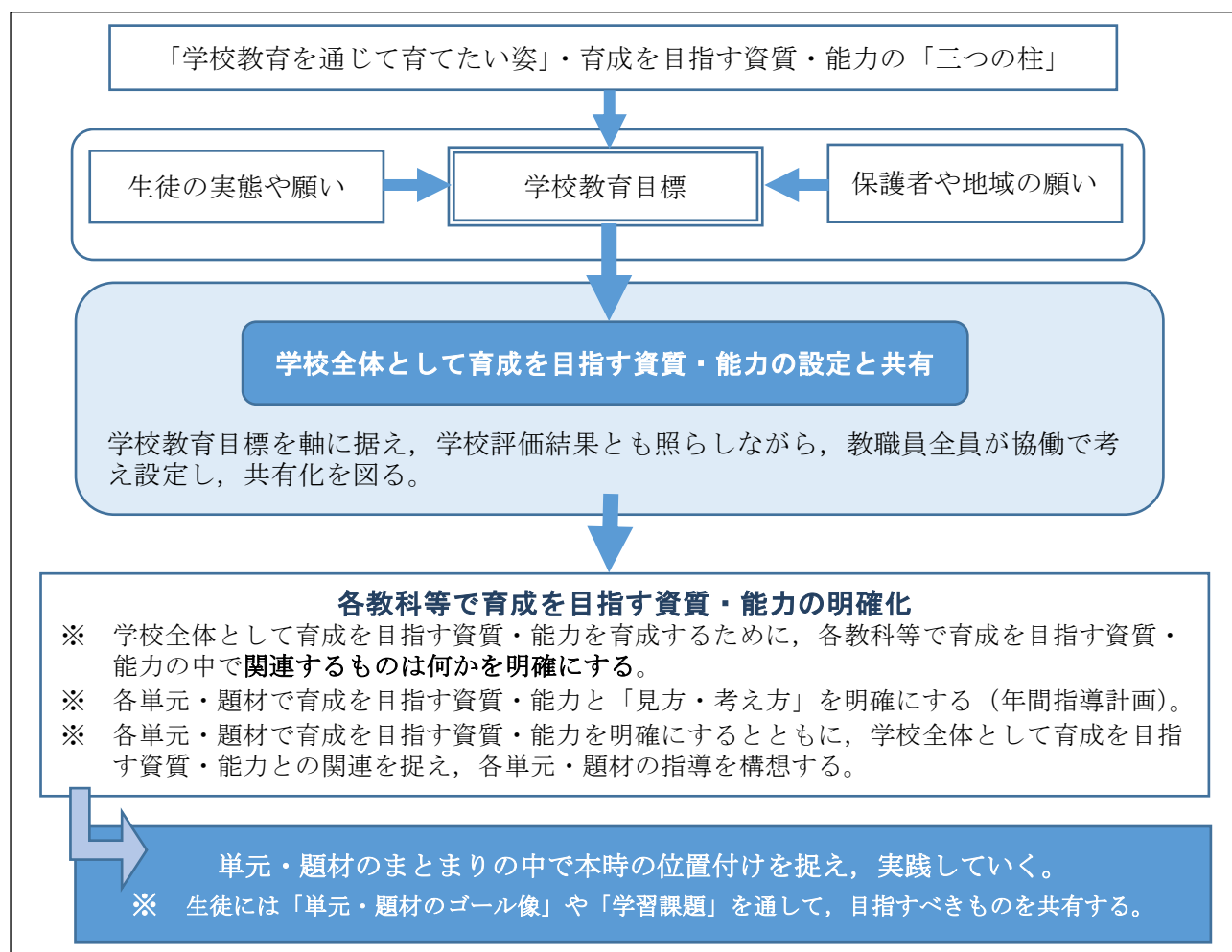
イ 各教科等で育成を目指す資質・能力との関連付けと指導計画の作成

・学校全体として育成を目指す資質・能力を育成するために、各教科等で育成を目指す資質・能力の中で関連するものは何かを明確にし、年間指導計画等に位置付ける。

・各単元・題材で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校全体として育成を目指す資質・能力との関連を捉え、各単元・題材の指導を構想する。

・「単元・題材のゴール像」や「学習課題」を通して、目指すべきものを生徒とも共有する。

学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有における考え方を下の【図2】に示します。



【図2】「学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有における考え方」

2 英語科において育成を目指す資質・能力

「答申」（2016）では、英語科で育成を目指す資質・能力について、三つの柱に沿った整理を行い、次の【表1】のとおりまとめました。これらをどれか一つに絞って育成するのではなく、三つの柱として総合的に育成することが求められています。

上山（2016）は、英語授業に当てはめて考えると、次のようなイメージだと述べています。

英語の知識があり、英語で意見を発信できるだけでは不十分で、課題解決に向けて他人と協働したり、何かあたらしいものを創り出したりして解決する力を必要とされている。

【表1】英語科において育成を目指す資質・能力の整理

知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力，人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の特徴やきまりに関する理解 <ul style="list-style-type: none"> ・音声，語彙・表現，文法の知識 ○言語の働き，役割に関する理解(例) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを円滑にする(繰り返す，言い換える 等) ・気持ちを伝える(感謝する，謝る 等) ・情報を伝える(説明する，理由を述べる 等) ・考えや意図を伝える(賛成・反対する，主張する 等) ・相手の行動を促す(依頼する，許可する 等) ※各言語活動に応じた言語の働き ○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を，「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外国語で，情報や考えなどを表現し伝え合う力 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，幅広い話題について，外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，幅広い話題について，外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力 ○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概用・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力 ◆考えの形成，整理 ○目的等に応じて，外国語の情報を選択したり抽出したりする力 ○知識や得た情報を活用して，自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力 ○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを，実際に外国語で表現する力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を通じて，言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 ○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり，自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め，尊重しようとする態度 など

また、各学校種における育成を目指す資質・能力は、次の【表2】のように整理されている。

【表2】資質・能力の3つの柱に沿った、小・中・高を通じて外国語教育に応じて育成すべき資質・能力の整理(外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて(報告)(以下「WGにおける審議のとりまとめ」という)(2016)より

	知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
外国語活動 小学校	○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること ○外国語を聞いたり、話したりすること	○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 など
外国語 小学校	○言葉の仕組みへの気付き (音、単語、語順など) ○聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 外国語を読んだり、書いたりすること	○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 など
外国語 中学校	○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識 ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能 など	○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力	○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 など
外国語 高等学校	○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識 ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能 など	○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力	○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 など

3 英語科における「見方・考え方」

(1) 「見方・考え方」とは

「答申」(2016)において、各教科等における物事を捉える視点や考え方を「見方・考え方」として整理しています。

- ・ “どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか” という、物事を捉える視点や考え方
- ・ 「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐもの

(2) 「見方・考え方」と「三つの柱」の関係

物事を理解するために考えたり、具体的な課題について探究したりするに当たって、思考や探究に必要な道具や手段として資質・能力の三つの柱が活用・発揮され、その過程で鍛えられていくのが「見方・考え方」です。

また、「見方・考え方」は、新しい知識・技能を既に持っている知識・技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりし、それによって「見方・考え方」が更に豊かになる、という相互の関係にあります。

(3) 英語科における「見方・考え方」とは

「答申」(2016)では、英語科での「見方・考え方」について、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」と整理し、以下のように述べられています。

他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界とのかかわりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視し、整理することが重要である。

英語科における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は以下のように整理されています。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

今回の実践における、「自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。」という単元の学習到達目標を設定した場合、次のように「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を以下のように明確に設定しました。

【中学校の例】

- ・ 自分の大切な家族について紹介するために
- ・ 伝える相手の予備知識や、相手にとって必要な情報を中心に据えて
- ・ 転校生とやりとりするという、実際のコミュニケーション場面において
- ・ 自分が伝えたいことを整理し、まとめること

1 資質・能力を育成する学びの過程の考え方

「答申」（2016）には、英語科の資質・能力を育成する学びの過程の考え方について、以下のように述べられています。

- 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため、育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けられるように改善・充実を図る必要がある。
- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、⑦設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、④目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、⑨対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、⑩言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うという学習プロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。
- 言語活動を行なう際は、単に繰り返し活動を行なうのではなく、児童生徒が言語活動の目的や、使用の場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な語彙や文法事項などの言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。
- また、言語材料については、発達段階に応じて、児童生徒が受容するものと発信するものとのあることに留意して指導し、各学校段階等を通じて習得していく過程が重要である。
- あわせて、小学校中学年で扱われた語彙・表現や・高学年における文字の認識、語順の違いなどへの気付き等に関して指導した内容を、中学校の言語活動において繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現と「アクティブ・ラーニング」の視点

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

「答申」（2016）には、「主体的・対話的で深い学び」について、以下のように述べられています。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことで、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「アクティブ・ラーニング」の視点を以下のように示しています。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関係付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

この三つの視点の位置付けについては次のように述べられています。

○三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、また、それぞれ相互に影響し合うものでもあるが、学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。

そして、英語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、以下のようにまとめられています。

○外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要であり、そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である。

これまでの学習とのつながりについては、次のように述べられています。

○今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければならないというのではなく、現在既に行われているこれらの活動（言語活動等）を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められていると言えよう。

(2) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善について

「答申」（2016）において示されている英語科における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現する学習・指導の改善・充実の視点は、次頁【表3】のとおりです。

それぞれの視点の実現に必要な手立てについて考え、【表3】の右に示しました。これらの手立てを取り入れ、実践を行いました。

【表3】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

		「アクティブ・ラーニング」の視点による手立て
「主体的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと ○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する ○本単元で目指す姿について、ルーブリックを用いて生徒と共有し、生徒自身が自分の学びの成果を捉えられるようにする ○振り返り場面を設定し、言語面（内容面）での振り返りをワークシートに記入させる。また、書いたことを発表させ、学んだことを共有化する ○CAN-DO リストを基にどのような力が身につけばよいか明確に示し、教師が生徒と学習到達目標を共有する ○ゴール像から逆算した授業のバックワード・デザインを行う
「対話的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること ○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材について理解したり、意見や考えを交流したりする場面を設定する。（例：Teacher Talk や Oral Introduction など） ○それぞれの活動の目的に合わせて、ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する ・相手を換え、対話する機会を増やす ○お互いの存在や考えを尊重するなど、相手意識をもたせ、安心して言語活動に取り組む親和関係を築く ○ゴールを達成するためのステップを踏んだ言語活動を設定する
「深い学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること ○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の内容について読み取ったことや、自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて、発表したり対話したりするなど、アウトプットを目指した、統合的な言語活動を行う ○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指すために、目的・場面・状況を明確にした、実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する

※全体を通して

○教室を「安心・安全・挑戦」の場にするために、褒めたり励ましたりするなどのプラスの声かけを続ける。

3 単元の構想と学習過程

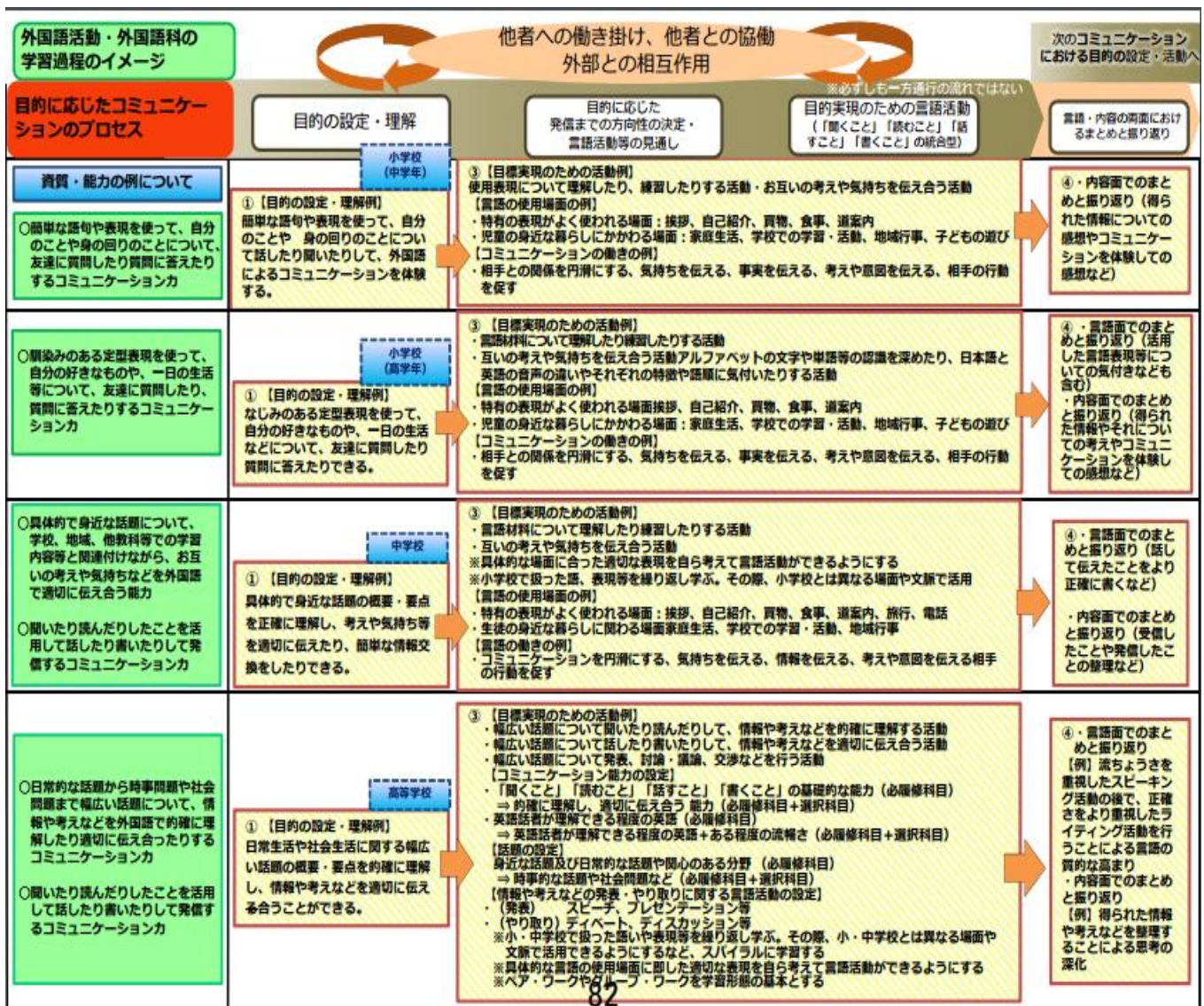
(1) 資質・能力の育成を目指した単元の構想

「答申」(2016)には、**「単元等のまとまりを見通した学びの実現」**について、以下のように述べられています。

- 「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元の中で、例えば主体的に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる
- 各学校の取組が、毎回の授業の改善という視点を超えて、単元や題材のまとまりの中で、指導内容のつながりを意識しながら重点化していけるような、効果的な単元の開発や設定に関する研究に向かうものとなるよう、単元等のまとまりを見通した学びの重要性や、評価の場面との関係などについて、総則などを通じてわかりやすく示していくことが求められる。

次期学習指導要領では、資質・能力の育成を図るために、小・中・高等学校を通じて単元全体を通して①学校段階間の学びを円滑に接続し、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標（指導形式の目標）などを提示する方向で改善を図ることが重要です。

ここまですべてを整理し学習活動の中で、三つの柱で整理した資質・能力がどのように働いているかを含めて、授業づくりの基本となる学習過程例は「答申」(2016)より、次の【図3】のように示されています。



【図3】 英語科における学習過程例

外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るために、単元全体を通して「身に付けさせたい力」を育成するために、ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える、バックワード・デザインを意識した単元構想を行うことが必要です。上記【図3】の学習プロセスを基に、その例を【表4】に示します。

【表4】単元における学習過程の例

プロセス		英語科における資質・能力		学習活動
理解 目的の設定・ 最終到達目標 の理解・把握 単元のゴール (単元のゴール)	他者への働きかけ・他者との協働・外部との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ●導入された内容と自分との関連性を見いだす力 ●これから学習する内容について、見通しを持ち、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ●生徒と教師が最終到達目標を共有し、それに向けて何をどのように学ぶかを整理する力 ●外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する内容についての全体像を把握し、最終到達目標を理解する活動 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●単元のゴール達成のために、外国語の音声、語彙、表現、文法の知識等を学び取ろうとする態度 ●言語の働きや役割などを、場面を通して理解する力 ●外国語の音声、語彙、表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用しながら理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝えあう活動 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●中学校では具体的で身近な話題について、高等学校では日常的な話題から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を「聞いたり」「読んだり」して情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力 ●中学校では具体的で身近な話題について、高等学校では日常的な話題から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を「話したり」「書いたり」して情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力 ●自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動 ・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 ●外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能 		
目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動当の見通し 目的実現のための言語活動 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型	単元のゴール達成に向けての練習 単元のゴールとなるアウトプット活動	<ul style="list-style-type: none"> ●【言語面と内容面で期待されること】 ●流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視したライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり ●得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・話して伝えたことをより正確に書く活動 ・受信したことや発信したことを整理する活動 	
振り返り 言語・内容の両面に おけるまとめと振り返り	単元の振り返り			

(2) 資質・能力を育む一単位時間の学習過程

一単位時間で身に付けさせたい資質・能力の育成を目指す授業の在り方について、特に課題となっている「話す力」の育成を目指した学習過程について、具体的な過程とその学習活動を示しました。単元計画と同様、その時間の到達目標に向けて、必要な言語活動を取り入れた学習過程が重要です。本研究では、村野井（2006）が示した PCPP サイクルの考え方を取り入れた例を【表5】に示します。

【表5】一単位時間における学習過程例

学習過程	学習活動	資質・能力
◇導入 (Presentation) 本時のゴール理解・把握	○本時の話題について ・Teacher Talk における生徒の背景知識を引き出す発問、写真や映像等を使ったデモンストレーションを通して、これから学ぶ内容とゴールを理解させる。 ・バックワード・デザインをもとに、アウトプットまでに必要な活動をスモールステップで積み上がるよう設定し、黒板に示すなどして、生徒と共有する。	主体的に学習に取り組む態度
◇展開 (Comprehension) 本時のゴール達成のための内容理解	○具体的で身近な題材のみならず、抽象的な題材や広く社会や世界に関する題材についても、その概要・要点を正確に理解する活動を設定する。 ・本文の内容理解や言語材料について理解する活動を行う。	知識・技能
◇展開 (Practice) 本時のゴール達成にむけての練習	○言語材料の理解を基礎に、音読練習をしたり、自分で文を作ったりするなど、学習到達目標を達成するためのそれぞれの活動の役割や意図を理解したうえで、実際に言語を使ってみる活動を設定する。 ○ペア活動やグループ活動などを効率的かつ効果的に行えるよう、それぞれの活動の目的に合わせて学習形態を工夫する。	知識・技能 思・判・表 思・判・表
◇展開 (Production) 本時のゴールとしての Output 活動	○自分の意見や感想を相手に適切に伝えたり、調べてきた情報を共有したりするなど、積極的に意見や情報を交換することで理解を深める活動を設定する。 ○具体的な場面や状況に応じて、適切な表現を自ら考えて発信することができるよう課題を設定する。 【中学校】：互いの気持ちや考えなどを伝え合う、対話的な言語活動（言語の使用場面例） ・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話 ・生徒の身近な暮らしに関わる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事（言語の働きの例） ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す。 【高等学校】 ・発表・討論・議論・交渉など、言語活動の高度化 ○既に学習した語や表現等も自分の言葉として自然に使うことで、「英語を使えた」という感覚を促し、理解と定着を図る。 ○自分に置き換えたならば、どう行動するかなど、言語材料を個人に落とし込む活動（personalization）や、その後の発展的自律学習につながるオープンエンドな活動で単元を締めくくる。	思・判・表 思・判・表 知識・技能 思・判・表 思・判・表
◇終末 (feedback) 言語・内容の両面におけるまとめと振り返り	○言語面でのまとめと振り返り ・話して伝えたことを「書く」活動を加えることで正確さを高める。 ○内容面でのまとめと振り返り ・学習した内容について、受信したことや発信したことを全体で共有し整理する。	主体的に学習に取り組む態度 主体的に学習に取り組む態度

1 学習評価について

「答申」（2016）には、学習評価について、以下のように述べられています。

- 学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められる。

また、評価の観点や評価場面については、以下のように述べられています。

- 観点別評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理することが必要である。
- これらの観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で、学習・指導方法と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。

評価にあたっての留意点等として、以下のように述べられています。

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。
学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。
- 資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。
- 子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置づけることが適当である。

上記を踏まえ、本研究では評価に対する基本的な考えを以下の通りとします。

- ア 学習評価の目的は、「学習成果の把握」「教員の指導改善」「学習者の学びの推進力」とする。
- イ 評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。
- ウ 単元の中に、学習・指導方法と評価の場面を適切に組み入れる。
- エ 評価規準は「子供たちにどういった力が身に付いたか」を子供の姿として示す。
- オ 単元に課題解決的な言語活動を位置付け、パフォーマンス評価を行っていく。
- カ 学習活動の中に自己評価を位置づける。

今回の実践では、以上の3つの流れを大切にし、指導と評価の一体化を図りました。

- ①学習到達目標は、各研究協力校で示されたCAN-DOリストの目標と、教科における「見方・考え方」を基に設定すること
- ②どのような力が身に付いたのかを図るパフォーマンス課題を先に作成すること
- ③その課題をクリアするために、バックワード・デザインで単元指導計画と授業展開を作成すること

また、「WGにおける審議のとりまとめ」(2016)では、観点及びその趣旨について【表4】のように三つに整理しています。次期学習指導要領においては、「学力の3要素」や「育成すべき資質・能力の3つの柱」に応じて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で整理されることとなります。

【表4】英語科における評価の観点のイメージ

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
小学校 外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。 ○外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○言語や文化に対して興味関心を持って、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
小学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。 ○外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化などに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○馴染みのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りしたことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○言語や文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
中学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
高等学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

2 パフォーマンス課題とルーブリックについて

知識を「知っている」だけでなく、「使える」力までつけたいと考えると、評価は「知識を測るペーパーテスト」だけでは不十分で、体育や家庭科と同様、知識やスキルを状況において使うパフォーマンスを評価する必要があります。ここでは、上山（2016）の考えを基に、パフォーマンス課題とその評価の内容を示す、ルーブリックの在り方について説明します。

ア パフォーマンス課題とは

英語科ではこれまでも「インタビューテスト」などを行ってきましたが、パフォーマンス課題とはさらに幅広く、「エッセイ」「レポート」「作品の制作」「プレゼンテーション」「ディベート」等が含まれます。

イ ルーブリックとそのメリット

あるパフォーマンスを評価する場合は、評価の「観点」や「レベル」や「規準の説明」が必要になってきます。ルーブリックはそれを表形式にまとめたものです。

ルーブリックのメリットは、以下の項目が挙げられます。

【教員にとって】

- 採点基準を先につくことで求めるレベル（質・量）が明らかになる
- 複数人数でも採点がぶれにくい
- リストにチェックするだけで採点しやすい
- フィードバックをすぐに返せる

【生徒にとって】

- 事前に指標を示されるので、求められる観点やレベルを先に理解できる
- リストのチェックを見ると、フィードバックになる。

ウ ルーブリックのアレンジと作り方

ルーブリックは、授業の多くの場面で活用できます。例えば、スピーチやプレゼンテーションなどの「話す」場面、自由英作文などの「書く」場面です。ルーブリックの良さは、ねらいや発達レベルに合わせて基準を作れることです。

ルーブリックの作り方のポイントを簡単にまとめると、次のようになります。

- 課題を通して求める「スキル」や「要素」の最高水準を考える（構成・内容・表現）
- 観点別に3（～5）段階で記述する（最高⇒最低⇒中間の順、教育的な表現にする）
- 数人分のパフォーマンスで評価してみて（必要なら）修正を加える

本実践においては、中学校においてルーブリックを作成し、生徒と共有を図りました。p29 に具体的な内容が記されています。

IV 理論構築のための実践事例

1 中学校における授業実践

事例1（奥州市立江刺第一中学校第1学年） 平成28年10月6日（木）～18日（火）
学 級：江刺第一中学校1年1組 授業者：県立総合教育センター 高橋 成周

1 単元名

Program7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE English Course1)

2 単元の目標及び単元で働く「見方・考え方」

(1) 単元の目標

- ・自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。【話すこと（やりとり）】（思考・判断・表現）
- ・疑問詞(who や when)や、人称代名詞の目的格の使い方を理解し、相手と簡単なやりとりをすることができる。（知識・技能）
- ・話し手、聞き手に配慮しながら、英語を使って、相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 単元で働く「見方・考え方」

- ・自分の大切な家族について紹介するために、伝える相手の予備知識や、相手にとって必要な情報を中心に据えて、転校生とやりとりするという実際の活動場面において、自分が伝えたいことを整理し、まとめること。

3 単元について

(1) 題材の設定について

本単元は、由紀とマイクが北海道の釧路沖でシャチウォッチングに参加して、ガイドの笹森さんからシャチやイルカの生態について教えてもらうという内容である。海のギャングと呼ばれるシャチだが実は家族を大切にすることや、室蘭沖のイルカが豊かな海でのびのびと子育てしている様子を通して自然の素晴らしさ、大切さを感じることができる題材である。

言語題材としては疑問詞 who, when を習得して、三人称単数現在形と組み合わせることで、多様な表現に結び付けることができる。また、代名詞の目的格を習得することで、つながりのある英文を意識させ、自分の家族について紹介したいことを、形成、整理、再構築しながら、表現する力を育成することができる考える。

(2) 生徒の実態

日々の授業において、協力してペア活動やグループ活動に取り組むことができている。また、英語での対話練習や発表活動においても、積極的に取り組んでいる。これらの実態をふまえ、与えられたテーマについて、自分の考えや気持ちを伝えあいたくなるテーマや、コミュニケーションに必要な具体的な場面を設定し、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築するような見方・考え方を働かせることで、一連の学習過程を経て思考を深め、コミュニケーション力の育成につなげたい。

(3) 指導にあたって

【主体的な学び】

外国語科の目標に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が挙げられている。主体的に学ぼうとする意欲が高まらなければ、コミュニケーションは成り立たない。そこで、実際のコミュニケーションに近い、「自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。」という、具体的な場面を設定する。これなら、状況設定も相手も明確であり、自分しか知らない伝えたい情報もあるので、表現する必然性が生じ、生徒の意欲を高めることができると考える。

また、単元の到達目標のルーブリックを作成し、生徒に提示する。生徒が自らどのような力を身に付けるかを、自覚化させることで、見通しを持って主体的に学びに向かうと考える。

授業の終わりには振り返りの場面を設け、その日学んだ表現や、クラスメイトとの関わりを通して学んだことを記述し、クラス内で交流する時間を設ける。学んだことや学び方について、自覚化させる目的と、次時の学習につなげられるような主体的な学びにつなげたい。

【対話的な学び】

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教員と生徒や、生徒同士が対話し、思考を広げ深めていくことが求められる。

授業の始まりには、Teacher Talk を取り入れる。教科書の本文の内容に基づいたやりとりを行うことや、学んだ表現を基に必要な情報を伝え理解することを通して、生徒の興味関心を高め、実際に使えるようになることを目指していきたい。

また、ペアやグループ活動など、生徒同士の対話活動を効果的に取り入れ、相手に伝わるように話すにはどうしたらよいか、また、相手の気持ちや考えを理解したことを伝えるにはどうしたらよいかなど、相手意識を持たせられるような、相手を尊重し、他者と関わる資質・能力の育成を目指したい。そして、自分が伝えたかったことについて、学んだ表現を用いてお互いにやりとりするなど、学び合うことを通して表現力の育成につなげたい。

【深い学び】

生徒が習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、思考・判断・表現し、実際のコミュニケーション場面となる言語活動をゴールに設定することで、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」の実現を目指したい。

本文の内容理解につなげるために、キーワード・マップを取り入れる。マップを作成する活動を通して、日本語を介さず英語による理解を促すことができると考える。また、読み取ったことをペアに伝える統合的な活動を行うことで、相手を意識し、伝えたいことを既習表現を基に思考・判断させる。

そして、発表はマップを基に考え整理した内容を、何も見ないで即興で伝えさせる活動を行なわせることで、考えたことを整理し、再構築しながら表現することができる発信力の育成を目指したい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞(who や when)を用いた応答の仕方や、人称代名詞の目的格に関する知識や使い方を身に付けている。 ・あいづちをうったり、聞きなおしたりするなど、相手に伝わるように話したり、分からないことは聞きかえし、理解しようとするなど、実際のコミュニケーションに必要な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の大切な家族について、伝えたい情報や気持ちを整理し、アメリカから来た転校生に紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族について、聞き手に伝わるように話したり、話し手が伝えたいことを理解しようとしたりするなど、相手に配慮しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

5 単元の指導と評価の計画【全8時間】

時	学習過程	学習課題(○)と主な学習活動(・)	評価規準と評価方法
1	目的の設定・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元の学習における目的の設定と理解 ○Whoを使って、有名人の3ヒントクイズを作り、出題することができる。 ・教師のデモンストレーションを見て、ゴールの活動となる活動の内容を理解する。 ・新出表現の理解活動を行う。 ・ホワイトボードを使用し、ペアで問題と3つのヒントを考え、見ないで言えるようになるまで練習する。 ・個人でクラスメイト3人以上に出題する。 ・出題した3ヒントクイズの問題の英文を書く。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのヒントを考え、whoを使って、クイズを出題することができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように、アイコンタクトやジェスチャーを交えたり、繰り返したりしながら出題できる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を読みながらクイズを出題させる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
2	目的に応じた発信までの方向性の確定・言語活動当の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ○P69の登場人物になったつもりで、大切なことを伝えるように会話することができる。 ・Teacher Talkを基に、海の生き物について興味・関心を高める。 ・シャチウォッチングで、笹森さんがどのようなことを説明しているか、おおまかなあらすじをとらえる。 ・発音やイントネーションなどに気をつけながら、本文の音読練習をする。 (チャンク読み、オーバーラッピング、鉛筆おき読み、read&look up) ・グループごとに、つなぎ言葉や表情を意識しながら練習し、全体の前で本文の登場人物になりきってロールプレイを行う。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物になりきって、文の大切な部分は強く、ゆっくり話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーやあいづちを取り入れながら、抑揚を付けて発表することができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
3		<ul style="list-style-type: none"> ○自分が知っている人について、ペアで対話文を作り、発表することができる。 ・教師の対話を聞き、内容について考える。 ・新出表現の理解活動を行う。 ・新出表現のパターンプラクティス ・him, herを用いて、ペアでスキットづくりに取り組む。 ・2人組×4グループを作り、発表を行う。 ・ペアで行った対話文を書く。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話文の後ろに最低1文付け足して、話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスα以上のパフォーマンス(ジェスチャーやあいづち)を取り入れて話すことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
4		<ul style="list-style-type: none"> ○シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。 ・シャチのニックについて、Teacher Talkを聞きながら、前時の学習を振り返る。 ・笹森さんのシャチの生態の説明を聞き、聞き取りポイントを基に概要をつかむ。 ・内容を英語で把握させるために、聞いたことを基にマップをつくる。 ・本文の音読練習をする (BUZZ READING・一語読み・チャンク読み・Read&Look up) ・マップを書き直し、グループ内で説明する。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで、40秒以上話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ながら話してもよいこととする。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容

5		<p>○シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ発表の個人練習 ・自分が作成してきたマップについて、40秒話しきることができるように練習する。 ・列を作り、ペアを変えながら交互に発表する。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで40秒以上話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ながら話してもよいこととする。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
6	「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の統合型	<p>○自分の家族について、紹介したい内容を考え、マップを完成させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のデモンストレーションを見て、発表のゴールをイメージする。 ・自分が紹介したい人について、マップにより伝えたい内容を考える。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい家族のことについて、マップを書くことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい家族について、既習事項を多く使いながら、内容のまとまりのあるマップを書くことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで書きたい内容について、アイデアを教えてもらい、書くことができる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
7	「書くこと」の統合型	<p>○アメリカからの転校生に伝えるように、内容や方法を考えて紹介することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介した人について、どんな質問が来るか、ペアで考える。 ・ペアを変えながら、発表練習を行い、お互いのよいところをコメントし合う。 ・代表生徒が、全員の前でデモンストレーションする。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで40秒以上話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップを見ながら話してもよいこととする。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
8	言語・内容の両面におけるまとめと振り返り	<p>○自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3グループに分け、グループ内で列を作り練習する。 ・グループを3つに分け、転校生役の先生の前で、自分の家族について、40秒以上を目標に紹介する。 ・紹介した家族について話したことについての英文を書く。 ・振り返りシートを記入し、交流する。 	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したマップをもとに、まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。 <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情よく相手に伝える工夫をしながら、まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したマップを手を持ち、心配な時は見ながら話してもよいこととする。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容

※主体的に学習に向かう態度は、コミュニケーション全体を支えるものとして、単元全体を通して評価するものとする。なお、評価については、生徒の行動、パフォーマンス、記述などから見取るものとする。

6 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った授業改善の提案

	「答申」(2016)の記述	実践内容
「主体的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと ○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【1】課題を明確に示す。 ・教師がデモンストレーションする。 ・ルーブリックを提示し、生徒と共有する。 ○【2】学んだことをアウトプットする振り返りの場面を設定する。 ・振り返りシートを記述させ、発表によって学んだことを共有化する。 ○【3】目的・場面・状況等を明確にし、実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。
「対話的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること ○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【4】教科書の題材や対話の内容について、読み取ったことを基に、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝え合う活動を取り入れる。 ○【5】教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。 ○【6】聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。
「深い学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること ○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【7】教科書の内容や自分の紹介したい家族について、伝えたいことを整理し、まとめる。 ・キーワード・マップを作成する。 ○【8】身に付けた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動を行う。 ・海外から来た転校生に、自分の家族について紹介するという、実際のコミュニケーションの場面に近づけた、やりとりする必然性のある言語活動を設定する。 ・アウトプットに向けた練習時間を保障する。 ・発表したことを書く活動につなげる。

7 本時の実際

【本時の展開 1 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (12分)	1 今回の授業実践の趣旨について教師の話 を聞く 2 授業者のデモンストレーションを見て、 ゴールの活動となる場面内容を理解する 3 本時の学習到達目標の確認	【実践内容 1】 ・本単元、本時のゴールのデモンスト レーションを行い、ゴール像を示し、 見通しをもたせ、生徒の意欲・関心 を高める。
Today's goal : 有名人の3ヒントクイズを作り、出題することができる。		
展開 (33分)	4 新出表現の確認 (1) who を使った疑問文の対話を聞き、あて はまる絵を選ぶ。 5 ペア活動 (1) ホワイトボードを使用し、誰について、 またそのヒントを、ペアで考える。 (2) 完成したヒントを、見ないで言えるよう になるまで、ペアで練習する。 6 アウトプット活動 (1) 個人でクラスメイト3人以上に出題す る(普段の4人グループ以外の人に出題 すること。) <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎ペアで考えた、who を使った3ヒント クイズを出題している。 ・相手をみず、ただヒントを書いた用紙を 読みながらクイズを出題している。 </div>	【実践内容 4】 ・身に付けた知識を活用するために、 出題する3つのヒントについて、ペ アでどのようなヒントにするか話し 合い、作成する。 【実践内容 8】 ・既習して身に付けた知識を「話すこ と」において、実際のコミュニケー ションで運用する力を習得し、実際 に活用する。
終末 (5分)	7 振り返り (1) 出題した3ヒントクイズの問題の英文 を書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入し、 交流する。 8 次時の見通しをもつ	【実践内容 8】 ・自分が表現した内容を書く統合的な 活動を取り入れ、既習事項の深い定 着を促す。 【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業 で気づいたこと、また、ペア学習を 通して学んだことを記述・発表し、 学んだことを共有化する。

【本時の展開 2 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (10分)	1 90秒クイズを行う 2 授業者の説明を聞き、本時の内容について、考える 3 本時の学習到達目標の確認	<p>【実践内容 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容について、生徒と英語による対話を行い、興味・関心を高める。 <p>【実践内容 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のゴールについて、ゴール像を示し、見通しをもたせる。
<p>Today's goal : P69 の登場人物になったつもりで、大切なことを伝えるように会話をすることができる。</p>		
展開 (35分)	4 本文の内容理解 (1) 教科書は閉じたまま、リスニングポイントを考えながらCDを聞く。 (2) 自分の言葉で簡単にまとめる。(→ペア) (3) もう一度CDを聞き、男の人が驚いている理由を考える。 (4) 大切なことを伝えるために、どのようなことを心がければよいか、ペアで考えさせる。 5 音読練習 (1) 段階を追った音読練習を行う。 チャンク読み、オーバーラッピング、鉛筆おき読み、read & look up 6 グループ練習 (1) 伝えたいことを意識しながら、グループで練習させる。 7 アウトプット活動 (1) くじを引き、その場で誰を演じるか決める。(間違ったり止まったりしたときは、オーディエンスが教えてもよい。) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎登場人物になりきって、文の大切な部分は強く、ゆっくり発表している。 ・感情を込めず、抑揚もないまま、教科書を読んでいる。</p> </div>	<p>【実践内容 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の概要や要点について把握したことをペアで交流し、内容理解につなげる。 <p>【実践内容 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の内容について理解したことを基に、登場人物になりきって気持ちを込めながら、発表するにはどうしたらよいか意見を出し合い、グループ内で練習する。 <p>【実践内容 8】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の内容について理解したことを基に、登場人物になりきって気持ちを込めながら、グループによるロールプレイを行う。 <p>【実践内容 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。
終末 (5分)	8 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 9 次時の見通しをもつ	<p>【実践内容 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。

【本時の展開 3 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (16分)	1 90秒クイズを行う 2 授業者のモデル対話を聞き、本時の内容について、考える 3 本時の学習到達目標の確認	【実践内容 1】 ・本時のゴールのデモンストレーションを行い、ゴール像を示し、見通しを持たせ、生徒の意欲・関心を高める。
Today's goal: 自分が知っている人について、ペアで対話文を作り、発表することができる。		
展開 (29分)	4 新出表現の理解 (1) P70 Listen に取り組む。 5 発音練習 (1) P70 の Speak についてペア練習 (どちらも言えるようになるまで練習) 6 ペア活動 (1) TRY を使って、スキットづくりに挑戦する。 ・基本コース：最低1文付け足す (B 評価) ・プラスαコース：前後に文を付け足す ・内容変更コース：内容を変更する ★Look at this () Do you know ()? ☆Yes. () is ().	【実践内容 7】 ・新出表現を取り入れたスキットをペアで考え、作成する。 ・アウトプットに向けて、十分な練習時間を設定する。 【実践内容 8】 ・ペアで考えたスキットをグループ内で発表する。 【実践内容 8】 ・自分が表現した内容を書く統合的な活動を取り入れ、既習事項の深い定着を促す。
終末 (5分)	◎対話の後ろに最低1文付け足して、会話している。 ・協力せず、ペアとの会話を行おうとしない。 8 振り返り (1) ペアでやりとりしたスキットを書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 9 次時の見通しをもつ	【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。

【本時の展開 4 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (13分)	1 90秒クイズを行う 2 授業者の話を聞き、登場人物について振り返る (1) シャチについて、知っていることをシェアする。 3 本時の学習到達目標の確認	<div data-bbox="903 293 1481 432" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 5】 ・教科書の内容について、生徒と英語による対話を行い、興味・関心を高める。 </div> <div data-bbox="903 443 1481 568" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 1】 ・本時のゴールについて、ゴール像を示し、見通しをもたせる。 </div>
Today's goal: シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。		
展開 (32分)	4 本文の内容理解 (1) 笹森さんの説明の内容について、聞き取りポイントを基に概要をつかむ。 ・2回聞き、メモを取る。 ・ペアで確認したあと、全体で確認する。 (2) CDを聞き、聞き取った内容をマップに書き込む(個人→ペアで書く) ・マップを使って、ペアで発表させる。 ・もう一度書く。 ・ペアを変えて発表させる。 ・内容の確認をするために、CDを聞く。 5 音読練習 (1) プリントを一度 BUZZ READING し、読めない単語に薄くアンダーラインを引く。 ・一語読み ・チャンク読み ・縦読みドリル(日→英:交代) ・Read & Look up 6 発表活動 (1) マップを書き直す。 (2) マップを使いながら、シャチの生態について、グループ内で説明できる。 (3) 代表1名が全体の前で発表する。 <div data-bbox="284 1675 871 1865" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> ◎シャチの生態について、マップを頼りに、なるべく見ないで40秒話している。 ・自分で作ったマップがないと、シャチの生態について、全く話すことができない。 </div>	<div data-bbox="903 680 1481 936" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 7】 ・本文の内容について、聞き取ったこと、自分の言葉でリテリングするために、キーワード・マップを作成し、深い思考を促す。 </div> <div data-bbox="903 958 1481 1214" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 8】 ・作成したマップをペアで伝え合う活動を行い、相手に伝わらない経験をさせることで、より深い読みにつなげる。 </div> <div data-bbox="903 1541 1481 1729" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 8】 ・マップを活用しながら、シャチの生態についてまとめたことを発表する、統合的な活動を行う。 </div>
終末 (5分)	7 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する 8 次時の見通しをもつ	<div data-bbox="903 1890 1481 2089" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。 </div>

【本時の展開 5 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (6分)	1 90秒クイズを行う 2 マップの確認 3 本時の学習到達目標の確認	【実践内容 1】 ・本時のゴールについて、ゴール像を示し、見通しをもたせる。
Today's goal: シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。		
展開 (34分)	4 マップ発表の個人練習 ・自分が作成してきたマップについて、40秒話しきることができるように練習する。 5 マップ発表 ・前列、後列で2列つくる。 ・交互に発表する。 ・時計回りで3回行う。 6 発表の振り返り ・記入したことについて、数名発表する。 ・全体の前で発表する。 ◎シャチの生態について、マップを頼りに、なるべく見ないで40秒話している。 ・自分で作ったマップがないと、シャチの生態について、全く話すことができない。	【実践内容 6】 ・話し手は相手に伝わるように、聞き手は聞き取ったことが伝わるように、それぞれ相手意識をもちながらやりとりすることで、協働性を高め、親和関係を育成し、自分の気持ちや考えを伝え合うコミュニケーション力を高める。 【実践内容 7】 ・ペアを何度も変えながら、発表させることで、お互いの発表から伝えたい内容や表現を交流することを通して、内容について整理し、再構築を図る。
終末 (10分)	7 振り返り (1) シャチの生態について、まとめて話したことについて書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 8 次時の見通しをもつ	【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。

【本時の展開 6 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (10分)	1 90秒クイズを行う 2 本時の学習到達目標の確認	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 1】 ・本単元のゴールのデモンストレーションを行い、ゴール像を示し、見通しを持たせ、生徒の意欲・関心を高める。 </div>
Today's goal: 自分の家族について紹介したいことについて、マップを完成することができる。		
展開 (35分)	3 紹介用のマップを作成する (1) 授業者のマップ例を基に、マッピングの仕方について理解する。 (2) 個人で、家族で伝えたいことについてマップを作る。 (3) ペアで、お互いが作成したマップを見て、紹介しあう。その後内容について、分かったことや、もっと知りたいことなどについて意見交換をする。 4 ゴールの姿について確認する (1) ループリックを基に、どのような発表ができればよいかイメージをもつ。 5 発表練習 (1) グループ内でペアを変えながら、発表練習を行う。 ・発表後は相互評価を行う。 ◎家族について紹介したいことについて、考えを広げながらマップを書いている。 ・伝えたい内容がまとまらず、マップを書くことができない。	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【実践内容 7】 ・紹介したい家族について、キーワード・マップを作成する活動を通して伝えたいことを整理し、まとめる。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【実践内容 5】 ・ペアを何度も変えながら、発表させることで、お互いの発表から伝えたい内容や表現を交流することを通して、発表したい内容の質の向上を目指す。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 6】 ・話し手は相手に伝わるように、聞き手は聞き取ったことが伝わるようにそれぞれ相手意識をもちながらやりとりすることで、協働性を高め、親和関係を育成し、自分の気持ちや考えを伝え合うコミュニケーション力を高める。 </div>
終末 (5分)	6 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する 7 次時の見通しをもつ	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。 </div>

【本時の展開 7 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (8分)	1 90秒クイズを行う 2 Teacher Talk 3 本時の学習課題の確認	【実践内容 1】 ・本時のゴールを示し、見通しをもたせる。
Today's goal: アメリカからの転校生に伝わるように、内容や方法を考えて、紹介することができる。(最終練習)		
展開 (37分)	4 発表方法の確認 ・授業者のデモンストレーションを見て、ゴールの姿を確認する。 ・出だし、終わりについて確認する。 ・ループリックを確認する。 5 個人練習 ・マップの確認と個人練習 6 全体練習 ・列を作る。 ・40秒以上を目指し、交互に話し続ける。 【目標4回】 ・発表後は評価カードを記入する。 (途中よいペアの発表を共有しながら行う) ・全体の前でデモンストレーションする。 ◎作成したマップの内容を基に、話す時は相手を見て、40秒以上話している。 ・作成したマップを手に持ち、マップを見ないと発表することができない。	【実践内容 1】 ・本単元のゴールのデモンストレーションを行い、ゴール像を可視化し、見通しを持たせ、主体的な学びの姿勢を促す。 【実践内容 5】 ・ペアを何度も変えながら、発表させることで、お互いの発表から伝えたい内容や表現を交流することを通して、工夫できる点やよかった点について交流し、発表内容の質の向上を目指す。 【実践内容 6】 ・聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。
終末 (5分)	7 発表の振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 8 次時の見通しをもつ	【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に、本時の授業で気づいたこと、また、ペア学習を通して学んだことを記述・発表し、学んだことを共有化する。

【本時の展開 8 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (5分)	1 ナンバーゲーム 2 本時の到達目標の確認	
Today's goal : 自分の大切な家族について, アメリカから来た転校生に紹介することができる。		
展開 (35分)	3 ルーブリックを確認する ・40秒間, 相手に伝える。 ・アイコンタクト, あいづち, 質問を入れながら対話する。 ・強調したいことは強く, ゆっくりと。 4 グループ練習 ・3グループに分け, 列を作り練習する。 5 生徒役の先生の前で発表 ・40秒以上を目標に話し続ける。 ・3カ所に分かれ, 順番に対話する。 ・1人ずつ先生の評価を受ける。 ◎自分の家族について紹介したいことを, 気持ちや考えを入れながらやりとりしている。 ・相手の表情を全く見ないで, マップに書いた内容を読んでいる。	【実践内容 1】 ・本単元のゴールのデモンストレーションを行い, ゴール像を可視化し, 見通しをもたせ, 主体的な学びの姿勢を促す。 【実践内容 8】 ・単元を通して育んできた資質・能力を発揮する, ゴールの発表場面 【実践内容 8】 ・自分が表現した内容を書く統合的な活動を取り入れ, 既習事項の深い定着を促す。
終末 (10分)	7 全体の振り返り (1) 振り返りシートに本時, 単元を通して学んだことを記入し, 交流する。	【実践内容 3】 ・振り返りシートを基に, 本時の授業で気づいたこと, また, ペア学習を通して学んだことを記述・発表し, 学んだことを共有化する。

◆資料

① 単元のループリック

Practice makes perfect.

～継続は力なり～

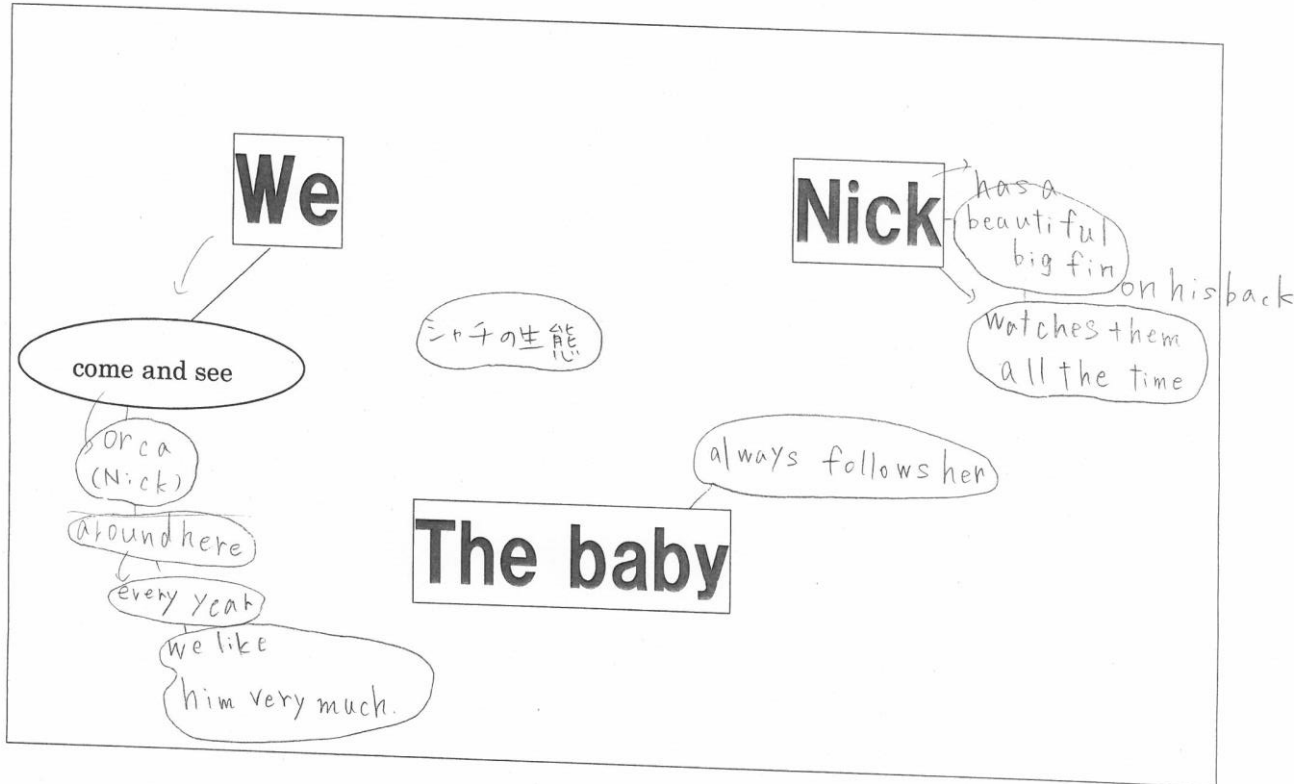
★PROGRAM7 ⑧

Today's Goal: 自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。（発表）

【こんな発表を目指そう！】

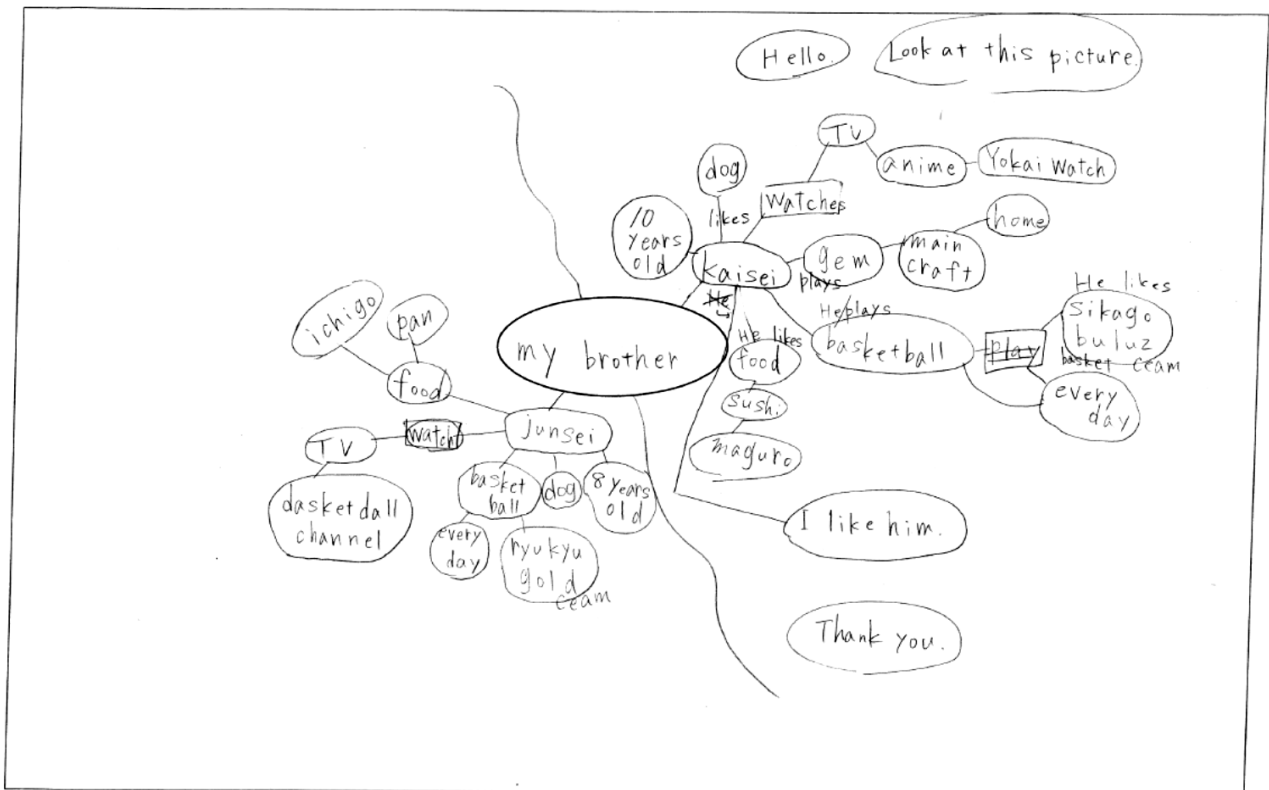
観点／基準	A	B	C
・内容	自分の家族について、自分が紹介したい情報やその人についてどう思っているかなどの気持ちを取り入れた、まとまりのある発表内容である。	自分の家族について、自分が紹介したい情報についてまとめた発表内容である。	自分の家族について、情報量が少なく、同じ内容のことしか伝えていない。
・伝え方	相手にわかりやすく伝えるために①～④の手段を3つ以上使いながら、間を空けずに対話を40秒以上続けることができる。	沈黙（間）ができることはあるが、①～④の手段のうち、2つ以上使いながら、対話を40秒以上続けることができる。	相手を引きつけるためのAにあげた①～④の手段を使うことができず、40秒以上対話を続けることができない。 会話が止まってしまうと自分から立て直せず、先生の手助けが必要になる。
①相手の表情を見ながら会話する。 ②強調したい単語は強くゆっくりと伝える。 ③言いたいことが言えないときには、ジェスチャーなどを使う。 ④間を空けないように、つなぎ言葉を使ったり質問したりする。			

② 本文の読み取りに生徒が作成したマップシート




③ 家族の紹介に作成したマップシート

My Mapping Sheet




④ 家族について発表したことをまとめた、紹介カード

Title: My brother
CLASS




Look at the picture.
His name is .
He's funny.
He's 12 years old.
He goes to elementary school.
He likes jojo.
His favorite character is Dio.
He has many comics.
He eats cucumber.
He drinks Akuerias. Thank you.

Title: My brother
CLASS




Hello, I'm . Nice to meet you.
Look at this picture. This is my brother.
His name is . This is his friend's.
He's seven years old. He plays base ball.
He watches YOUKAI watch. ON Saturday.
Do you watch TV? He likes Orochi.
He uses a computer and watches You Tube.
He sometimes cooks with my mother.
I like him. He is interesting.
Thank you.

Title: My brother
CLASS



Hello. Look at this picture.
He is my brother. His name is .
He plays basket ball every day.
He likes Chicago Bulls team very much.
He likes Sushi.
He plays game.
He watches anime.
I like him.
Thank you.

Title: I like Ryu
CLASS



Hello. Nice to meet you. I'm .
Look at the picture. This is my dog.
His name is Ryu. He likes family and ball.
He doesn't like thunder and big dog.
He can play Ote, Osuwari, Mate, Huse.
His birthday is February 18.
He's 15 years old.
He is cute.
I like him. Do you like dogs?
Thank you.

2 高等学校における授業実践

事例2（岩手県立岩泉高等学校第1学年） 平成28年11月21日（月）～22日（火）

学 級：岩泉高等学校1年 AB組応用コース 指導者：県立総合教育センター 寒河江 研哉

1 単元名

Lesson 5 Many Animals Are Dying Out (Discovery English Communication I 開隆堂)

2 単元の目標及び単元で働く「見方・考え方」

(1) 単元の目標

- ・絶滅種に関する具体的事例，人間の責任，そして救済方法について理解したことを発表している。（知識・技能）
- ・なぜ動物たちが絶滅に追い込まれた理由を考え，鍵になる表現を適切に活用しながら，適切に相手に伝えている。【話すこと（発表）】（思考・判断・表現）
- ・その他の絶滅危惧種についてのミニ・プレゼンテーションを行うという最終到達目標に向けて，教科書の内容理解や言語活動等を積極的に行っている。（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 単元で働く「見方・考え方」

絶滅（危惧）種について，グループで調べた種について発表するという最終到達目標のために，教科書で紹介されている例をマッピングを活用しながら理解し，相手に伝える活動を繰り返すことで自分の考えが形成・整理・再構築され，内容理解を深めることができること。

3 単元について

(1) 題材の設定について

本題材は，学習指導要領のコミュニケーション英語Ⅰの目標「英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に伝えたりする基礎的な能力を養う。」を主なねらいとして，内容（1）ア「事実に関する紹介や対話などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。」及びウ「聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見交換をしたりする。」に基づいて設定した題材である。本単元 Many Animals Are Dying Out は，絶滅（危惧）種を題材とし，人間との関わりのなかで絶滅の危機に瀕した例や，保護活動について学ぶ。教科書で紹介された動物以外にもレッドリスト等をキーワードに調べ学習をすることで，様々なことに気付かせ内容理解を深めさせたい。

(2) 生徒の実態

1学年を3つのコースに分け，そのうちの応用コース（進学希望）の生徒である。英語の苦手意識は他のコースと比べれば少ないが，英語を話すことについてはまだまだ積極的になれない状況である。地域の未来を背負う高校生として，地域の文化や伝統を積極的に外に発信していく力がこれからますます必要となっている。

(3) 指導にあたって

最終到達目標を単元に入る最初の段階で提示する。その最終ゴール到達に向け，生徒が主体的に学習に取り組む仕掛けと毎時間の授業が有機的に機能するように指導する。

導入としては，本単元全体を見通した導入を行い，生徒の持っている背景知識を刺激しながら英文を積極的に読みたいと思わせる状態を作りたい。また，語彙についても読前に導入するものと読後に導入するものとを分け，読前については教師によるインタラクションを交えながら英語で類推させ理解を促し，英文を読む際の動機付けの一助とする。

内容理解については，Q&Aを中心に行う。Qについてはその答え（A）をつないで行くと本文の要約文になるように設定しておく。Q&Aの答えの確認方法についても生徒同士のインタラクションを入れることで教師の一方的な答え合わせにならないように配慮する。

更に深い内容理解の手段としてワードマッピングを活用する。ストーリー・リテリングのための準備であると同時に，本文を内容にフォーカスして再び読むことで理解を促す。ワードマップを基にストーリー・リテリングを相手をかえながら何度も行うことで，「話す」場面とその練習時

間を十分確保する。「相手に伝える」というタスクを通すことで互いに学び合う場面が生まれ、英文を「読む」という活動がより主体的なものとなり、理解が深まる。

振り返りとしては、「話したことを書く」という流れを基本とすることで、口頭だけでは正確さに欠けている部分を補いながら、落ち着いて文字で書くことで、正確さや論理性を確認することができる。また、書く活動に対し抵抗が大きい生徒がほとんどだと思われるが、話す活動を十分に行うことで、書くべき内容は既に頭の中にあり、何を書いているかわからない状態ではないので、英文を書く活動も抵抗なく行うことができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 絶滅種として紹介されている種のおかれていた状況や人間の責任と救済方法について理解したことを、分詞による後置修飾、「理由・結果」を表す表現、間接疑問文等を用いて発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書から絶滅種についてどのようなことが実際に起こり、なぜそういう状況になったのかを考え、その理由を説明するために、ワードマップを使い鍵になる表現を活用しながら、自ら調べたものについて適切に相手に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅（危惧）種について、具体的事例や人間とのかかわりについて積極的に知ろうとしている。 読んで理解したこと、それに対する自分の意見や感想、自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

5 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時	過程	学習課題と主な学習活動	評価規準と評価方法
1	マッピングを活用した内容理解	【学習課題】 かつて50億羽もいたリョコウバトが絶滅してしまった理由を、ワードマップを活用しながら英語で相手に簡潔に伝えることができる。（パート1） 【主な学習活動】 ・本文を読んで内容に関する質問に答えたいうで、ワードマップを活用し要点を整理する。 ・マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。	【評価規準 (B)】 (思・判・表) ・Q&A とワードマップをもとに、ストーリー・リテリングをすることができる。 【Aの視点 (例)】 ・説明すべき要点を適切に捉えている。 ・相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。 【Cの手立て】 ・マップの作り方のポイントを個別に指導 ・黒板のQ&Aの答えを参考にさせる。 【評価方法】 ・観察 ・サマリーシート
2		【学習課題】 ロンサム・ジョージが「ロンサム」と呼ばれる理由を、英語でできるだけ自分の言葉として相手に簡潔に伝えることができる。（パート2） 【主な学習活動】 ・本文を読んで内容に関する質問に答えたいうで、ワードマップを活用し要点を整理する。 ・マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。	【評価規準 (B)】 (思・判・表) ・Q&A やワードマップからできるだけ目を離して、ストーリー・リテリングをすることができる。 【Aの視点 (例)】 ・説明すべき要点を適切に捉えている。 ・相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。 【Cの手立て】 ・マップの作り方のポイントを個別に指導 ・黒板のQ&Aの答えを参考にさせる。 【評価方法】 ・観察 ・サマリーシート
3	語彙理解と音読練習	【学習課題】 パート1と2で登場した語句を理解したいうで、本文を英語らしく音読することができる。 【主な学習活動】 ・語彙の発音と意味を確認しペアで練習する時間を十分確保し、その単語の使い方を理解し簡単な文を作れるレベルにまでする。 ・学習した語彙を踏まえ、本文を音読し、英語らしいイントネーションを意識して読む。	【評価規準 (B)】 (知・技) ・英語らしいイントネーションを意識して音読している。 【Aの視点 (例)】 ・内容を理解し重要語句を強調している。 ・チャンクを意識し間も理解している。 【Cの手立て】 ・棒読みではなく、チャンクを意識させる指導をする。 【評価方法】 ・観察

4	マッピング 理解 を利用した内容	<p>【学習課題】 動物たちを救うために、どのような対策がとられているかを理解し、その内容を相手を意識しながら簡潔に伝えることができる。</p> <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を読んで内容に関する質問に答えよう。ワードマップを活用し要点を整理する。 マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。 語彙定着のための練習と音読をし、相手への伝え方を理解する。 	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> Q&A やワードマップから序助に目を離し、相手の目を見ながらストーリー・リテリングができる。 <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明すべき要点を捉えている。 相手の上手な表現を取り入れている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> マップの作り方のポイントを個別に指導をする。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察 ・サマリーシート
5	文法・構文の理解	<p>【学習課題】 本文で登場した文法・構文の使い方を理解し、オリジナル文を作ることができる。</p> <p>【主な学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分詞による後置修飾 ②「理由・結果」を表す表現 (so ~ that…) ③S+V+O(=why-節) <ul style="list-style-type: none"> これら3つを含んだ文を提示し、意味や場面を類推する。 必要最低限の説明の後、オリジナル文を3種類作らせ、そのうち1文を黒板に書き、全体で共有しながら理解を深める。 	<p>【評価規準 (B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文で登場した文法・構文の使い方を理解し、それらに沿ってオリジナル文を作ることができる。 <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項をからめた文をつくっている。 今話題になっている事柄や若者目線の創造的な文をつくっている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が提示した文を参考に形をまねさせる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニ添削シート・振り返りの記述内容
6	目的実現のための言語・内容の両面におけるまとめと振り返り	<p>【学習課題】 ミニ・プレゼンテーションの準備</p> <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絶滅が危惧されている動物について、その名前、生息地域、絶滅に瀕している理由をグループで調べ、発表する準備をする。 レッドリストを紹介し、インターネット等も利用し、キーワードをもとに調べる。 	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に情報収集し、話す内容をまとめている。 <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英文サイトを積極的に活用している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 何をキーワードにするかを個別指導 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察
7	ミニ・プレゼンテーション	<p>【学習課題】 ミニ・プレゼンテーション</p> <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半20分で準備の仕上げ、後半は発表。 ※全体の前での発表ではなく、各グループ(半数)が同時に発表し、半数は聴く側となる。教室内でローテーションをしながら、連続して発表・連続して聴講&質問を行う。 <div data-bbox="363 1563 798 1769" style="text-align: center;"> </div> <p>● 発表者 □ 聞き手</p>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトを取りながらわかりやすく伝えている。 <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分な声量で、簡潔に伝えている。 聞き手とインターアクションを交えている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備と練習の時間をしっかりとらせ、大きめのカードに、伝えるべき要点をメモさせる。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察 ・振り返りシート ・プレゼン準備資料

6 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った授業改善の提案

	「答申」(2016)の記述	実践内容
「主体的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと ○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【1】課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・オーラル・イントロダクションにより教材と自身とを関連付ける。 ・最終到達目標の提示による各活動の意義の理解 ○【2】学びをアウトプットする振り返りの場面を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表と振り返りシートの記述による学びを共有化する。 ○【3】実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。
「対話的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること ○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【4】教科書の題材について、読み取ったことをもとに、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝えあう。 ○【5】教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。 ○【6】聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。
「深い学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること ○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○【7】マッピングを基に、教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを整理し、まとめる。 ○【8】身に付けた知識・技能を活用し、読んだり、聞いたりした内容について、アウトプットする統合的な言語活動を行なう。 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトプットに向けた練習時間を保障する。 ・本文の内容を理解し、マッピングを活用したりテリング。 ・タスクの解決を目指した言語活動 ・発表したことを書く活動につなげる。

7 本時の実際

【本時の展開1 / 7時間目】

- (1) 目標 50億羽もいたリョコウバトが絶滅した理由を英語で簡潔に説明できる。
 (2) 展開

過程	学 習 活 動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (10分)	1 絶滅が危惧されている動物に関するブレインストーミング。 2 写真を提示しながら絶滅(危惧)種に対する意識を高める。 3 本時の学習到達目標と単元の最終到達目標の提示。	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【実践内容 5】 ・生徒が既に知っていることと教科書の題材との関連性に気がつかせ、情報や意見を伝え合う。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 1】 ・本時のゴールについて、ゴール像を示し、見通しをもたせ、生徒の意欲・関心を高める。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> Today's Goal: 50億羽もいたリョコウバトが絶滅した理由を英語で簡潔に説明できる。 </div>
展開 (35分)	4 キーワード(読前に提示する単語)の例示 【Reading】 5 本文を読んで、Q&Aに取り組む。 (1) ペアで実際に質問をしあう形で答えを確認させる。 (2) あてられた生徒は黒板に答えを書く。 6 黒板の解答をベースに、生徒との対話しながら内容理解を促す。 7 ワードマップの作り方を説明し、マップを作りながら本文をもう一度読む。 【アウトプット活動】 8 ワードマップをもとにストーリーテリング。 9 マップを修正させたいうえで、相手を換えながら何度も練習する。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎マップを活用し、試行錯誤を繰り返しながらも要点を整理し、相手に伝えている。 ・マップに記入しているキーワードが少なく、時間を持て余している。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語とジェスチャーのみでキーワードを類推させる。 ・制限時間を設定して読ませる。 ・何を読み取るかを明確にして読ませる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【実践内容 5】 ・生徒同士のやりとりの場面を増やす。 ・話し手は相手に伝わるように、聞き手は聞き取ったことが伝わるように、それぞれ相手意識を持ちながらやりとりする。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【実践内容 7】 ・ペアを何度も変えながら、発表させることで、お互いの発表から伝えたい内容や表現を交流することを通して、工夫できる点やよかった点について交流し発表内容の質の向上を目指す。 </div>
終末 (5分)	10 振り返り (1) 本時のゴール「リョコウバトがなぜ絶滅したか」を確認 (2) 話したことを整理しながら書く (3) 単語(ワードハント)は宿題	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> 【実践内容 8】 ・自分が表現した内容を書く統合的な活動を取り入れ、既習事項の深い定着を促す。 </div>

【本時の展開2 / 7時間目】

- (1) 目標 「ロンサム・ジョージ」がなぜ「ロンサム」と呼ばれるのか英語で説明することができる。
 (2) 展開

過程	学 習 活 動 予想される生徒の姿	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 (10分)	1 「ガラパゴス諸島」を生徒から引き出す。 2 ガラパゴス諸島の位置を類推させる。 3 ゾウガメの写真を提示し、なぜ「ロンサム・ジョージ」と呼ばれるのかを考えさせる。	<p>【実践内容 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のスキーマを活性化させ、生徒同士の対話からテーマを導き出す。 <p>【実践内容 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のゴールについて、ゴール像を可視化し、見通しをもたせ、何を読み取るために読むのかの意識付けを行う。
Today's Goal: 「ロンサム・ジョージ」がなぜ「ロンサム」と呼ばれるのか英語で説明することができる。		
展開 (35分)	4 キーワード（読前に提示する単語）の例示 【Reading】 5 本文を読んで、Q&Aに取り組む。 (1) ペアで実際に質問をしあう形で答えを確認させる。 (2) あてられた生徒は黒板に答えを書く。 6 黒板の解答をベースに、生徒との対話しながら内容理解を促す。 7 ワードマップを作りながら本文をもう一度読む。 【アウトプット活動】 8 ワードマップをもとにストーリーテリング。 9 マップを修正させたうえで、相手を換えながら何度も練習する。 ◎マップからできるだけ目を離して、相手とアイコンタクトをもちながら要点を伝えることができる。 ・マップから目を離すことができず、相手にとってわかりやすい伝え方になっていない。	<p>【実践内容 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を読み取るために必要な最低限の単語を教師によるモデルで提示し、それを生徒が類推し、お互いにその理解を確かめ合うことで、自信を持って英文に向かわせる。 <p>【実践内容 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士のやりとりの場面を増やす。 話し手は相手に伝わるように、聞き手は聞き取ったことが伝わるように、それぞれ相手意識を持ちながらやりとりする。 <p>【実践内容 7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアを何度も変えながら、発表させることで、お互いの発表から伝えたい内容や表現を交流することを通して、内容について整理し、まとめながら話すことで知識を再構築する。 <p>【実践内容 6】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手に配慮しながら、あいづちや反応を入れるなど、やりとりに必要な双方向コミュニケーション力の育成を行う。
終末 (5分)	10 振り返り (1) 本時のゴール「ロンサムと呼ばれる所以」を確認 (2) 話したことを整理しながら書く (3) 単語（ワードハント）は宿題	<p>【実践内容 8】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が表現した内容を書く統合的な活動を取り入れ、既習事項の深い定着を促す。

◆資料

①本文で使用したワークシート (part 1)

コミ I Class _____
 L5
 Part
 ①

Many Animals Are Dying Out

Goal: 50億羽もいたリョコウバトが絶滅してしまった理由をワードマップを使って英語で相手に説明できる。

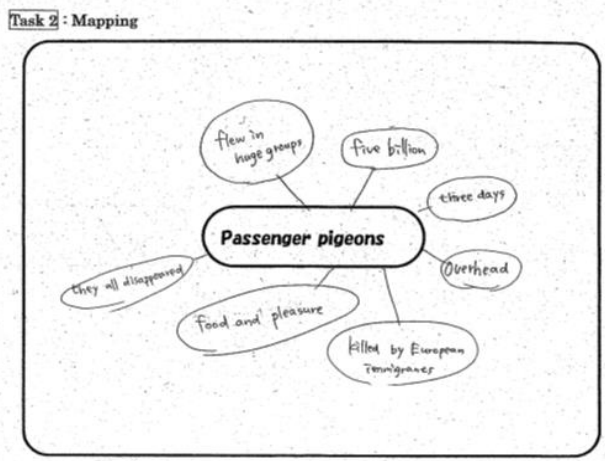
Task 1: Read the text in 10 minutes and answer the following questions below.

Part 1

Did you know there were once birds called passenger pigeons? They always flew in huge groups. Some groups were so huge that it took three days for them to pass overhead!

In the early 19th century, there were as many as five billion passenger pigeons. One hundred years later, however, they all disappeared. What happened to them? European immigrants to America killed them for food and pleasure. They believed there would always be plenty of passenger pigeons. So they kept catching them until it was too late to save them.

- Questions: Answer in full sentences**
- Q1. How many passenger pigeons were there in the early 19th century?(1)
 There were as many as five billion passenger pigeons.
 5 = 10億
- Q2. How did passenger pigeons fly?(1)
 They always flew in huge groups.
- Q3. One hundred years later, what happened?(1)
 They all disappeared.
- Q4. Why and who killed passenger pigeons?(1)
 European immigrants to America killed them for food and pleasure.
- Q5. What did European immigrants believe?
 They believed there would always be plenty of passenger pigeons.
- Q6. Until when did they kill passenger pigeons?(1)
 They kept catching them until it was too late to save them.



Task 3: Vocabulary hunt

	English		Japanese	Check
1	once	副詞	かつて	
2	passenger pigeons	(口語で)	リョコウバト	
3	fly	動詞	飛ぶ	
4	huge	形容詞	巨大な	
5	overhead	名詞	頭上	
6	19th century	名詞	19世紀	
7	as many as	(口語で)	もの(数の)	
8	billion	名詞	10億	
9	disappeared	動詞	姿を消す	
10	European immigrants	(口語で)	ヨーロッパからの移民	
11	pleasure	名詞	遊び・娯楽	
12	be plenty	(口語で)	たくさん	
13				

②本文で使用したワークシート (part 2)

コミ I Class _____
 L5
 Part
 ②

Many Animals Are Dying Out

Goal: ロンサム・ジョージがロンサムと呼ばれる理由をワードマップを使って英語で説明することができる。

Task 1: Read the text in 10 minutes and answer the following questions below.

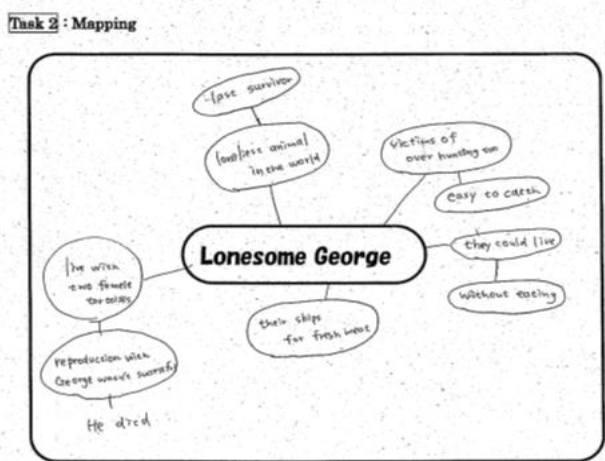
Part 2

Lonesome George was probably the loneliest animal in the world. He was the last survivor of the Pinta giant tortoises.

Like passenger pigeons, Pinta giant tortoises have been victims of overhunting, too. They were easy to catch. Also, they could live for about a year without eating. So sailors carried living giant tortoises on their ships for fresh meat.

George lived with two female tortoises of another species. But reproduction with George wasn't successful. He died in 2012 without any children.

- Questions: Answer in full sentences**
- Q1. Why is Lonesome George the loneliest animal in the world?(2)
 He was the last survivor of the Pinta giant tortoises.
- Q2. Why have Pinta Island tortoises been disappearing?(2)
 Pinta giant tortoises have been victims of overhunting too.
- Q3. Why were Pinta Island tortoise overhunted?(2)
 They were easy to catch.
- Q4. Why did sailors carry living giant tortoises on their ships?
 Sailors carried living giant tortoises on their ships for fresh meat.
- Q5. Who is George now living with? (What lived with George?)
 George lived with two female tortoises of another species.
 Could live for about a year without eating
- Q6. Did George become a father?
 He died in 2012 without any children.
 Reproduction with George wasn't successful.



Task 3: Vocabulary hunt

	English		Japanese	Check
1	lonely...	形容詞	孤独な	
2	loneliest	形容詞	もっとも孤独な	
3	survivor	名詞	生き残り	
4	Pinta	名詞	ピンタ (島)	
5	giant tortoise	名詞	ゾウガメ	
6	victim	名詞	犠牲	
7	without doing	(口語で)	～しないで	
8	sailors	名詞	船員・船乗り	
9	female...	形容詞	メスの	
10	species	名詞	種	
11	reproduction	名詞	繁殖	
12	successful	形容詞	成功	
13				

③サマリー・ライティング (Part1 及び Part2)

Class. _____

コミ I
L5
Part
①

Many Animals Are Dying Out

Goal: 50億羽もいたリョコウバトが絶滅してしまった理由をワードマップを使って英語で相手に説明できる。

Task 4 Summary Writing

Passenger pigeons flew in huge groups and flew overhead. But they killed by European immigrants because they believed there would always be plenty of passenger pigeons. And, five billion passenger pigeons weren't saved.

Task 4 概要を日本語で要約してみよう。 Summary Writing

リョコウバトは東部アメリカの森を飛ぶ。森上を飛んでいました。ヨーロッパから移民によって殺された。50億羽もいたリョコウバトは救われませんでした。

Class. _____

コミ I
L5
Part
②

Many Animals Are Dying Out

Goal: ロンサム・ジョージがロンサムと呼ばれる理由をワードマップを使って英語で説明することができる。

Task 4 Summary Writing

Lonesome George was the loneliest animal and the last survivor of the Pinna giant tortoises. They have been victims of overhunting, also, sailors eat them for fresh meat. Lonesome George died in 2012 without any children.

Task 3 概要を日本語で要約してみよう。

ロンサム・ジョージは最後の生き残り動物。ピンナガメの最後の生き残り動物。ピンナガメは絶滅の犠牲者になった。また、船員は新鮮な肉として彼らを食った。ロンサム・ジョージは子どもを産みませんでした。2012年に死にました。

おわりに

「答申」(2016)には、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善に関して、次のような懸念が述べられています。

- 教育の質の改善のための取組が、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないか
- 工夫や改善が、ともすると本来の目的を見失い、特定の学習や指導の「型」に拘泥する事態を招きかねないのではないか

また、次のようにも述べています。

新しい社会の在り方を自ら創造するが、できる資質・能力を育むためには、教師自身が習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子供たちの変化等を踏まえつつ自らの指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められる。

次期学習指導要領では、「三つの柱」を総合的に育むことを目指しています。本ガイドブックでは「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくりの考え方について、指導法を一定の型にはめ、狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないよう留意しました。

「アクティブ・ラーニング」の理念はかなり深く、手法だけでは本質を語ることはできません。全国すべての教室に当てはまる方法も初めから存在していません。ですから、1つの指導法に固執せず、「目的」や「生徒の学習状況」に合わせて柔軟に指導を工夫し続けることが大切です。

名古屋商科大学教授亀倉正彦先生の記事『「アクティブ・ラーニング失敗事例マンドラ」から学ぶ』(英語教育8月号, 2016, 大修館書店) するためには、カタチから本質を見据えなければいけません。

そのポイントとして、

- 学習目標は明確に作られているか
- 成績評価者としての責任を意識しているか
- 失敗を許容できる気持ちになっているか
- 向き合うべき生徒をしっかりとみているか
- 学習者へのメッセージ発信

以上5つが示されています。

私たちが今年実践した研究内容は、まだ道半ばのものです。ぜひ、先生方のご意見やご協力のもとにしながら、これから未来に向かって自律した英語学習者、そして未来を生き抜く人間づくりを目指して、進んでいければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、研究推進にあたり、岩手県立岩泉高等学校及び奥州市立江刺第一中学校のご協力をいただき、研究担当者による授業実践の機会を与您いただきましたことに深く感謝申し上げます、結びといたします。

V 引用文献, 参考文献及び参考 web ページ

【引用文献】

中央教育審議会(2016), 「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」 p. 2, p. 5, p. 6, p. 13, pp. 28-30, pp. 33-34, pp. 49-50, p. 52, pp. 60-63

【参考文献】

磯田貴道(2010), 『教科書の文章を活用する英語指導—授業を活性化する技 108—』, 成美堂
卯城祐司(2014), 『英語で教える英文法 一場面で導入, 活動で理解』, 研究社
太田 洋(2007), 『英語を教える 50 のポイント』, 光村図書
上山晋平(2016), 『授業が変わる! 英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』, 明治図書
胡子美由紀(2011), 『生徒を動かすマネジメント満載! 英語授業ルール&活動アイデア 35』, 明治図書
胡子美由紀(2016), 『生徒をアクティブ・ラーナーにする! 英語で行う英語授業のルール&活動アイデア』
明治図書
菅 正隆(2010), 『日本人の英語力 それを支える英語教育の現状』, 開隆堂
齋藤栄二(2015), 『「英語で授業」ここがポイント』, 大修館書店
染矢正一(2013), 『新版 教室英語表現辞典』, 大修館書店
高橋一幸(2011), 『成長する英語教師—プロの教師の「初伝」から「奥伝」まで』, 大修館書店
巽 徹(2016), 『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校英語科の授業プラン』, 明治図書
投野由起夫(2013), 『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』, 大修館書店
西岡加名恵(2016), 『アクティブ・ラーニングをどう充実させるか 資質・能力を育てるパフォーマンス評価』, 明治図書
溝上慎一(2014), 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』, 東信堂
村野井仁(2006), 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』, 大修館書店
望月昭彦編著, 久保田章, 磐崎弘貞・卯城祐司著(2010), 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』, 大修館書店
岩手県教育委員会(2016), 『岩手県中学校学習定着度状況調査』

【参考 Web ページ】

中嶋洋一(2011), 『バックワード・デザインによる「指導案改善」研修のすすめ—本気で, 今の授業を変えたい人へ—(2011. 5. 07)』 NPO 法人教育情報プロジェクト 英語教育東京フォーラム
<http://www.e-pros.jp/report/view/40> (2016. 8. 25 閲覧)



資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック
「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善
中学校・高等学校 英語科編

平成 29 年 3 月

岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当
高橋 成周・寒河江 研哉